

あいづばんげ 議会だより

210号

令和5年7月25日発行
福島県会津坂下町議会

目次 - CONTENTS -

第2回定例会	2
一般質問(8人が登壇)	6
議会の動き	11
みんなのひろば・編集後記	12

令和5年度 第2回 定例会

令和5年第2回定例会は、6月8日～16日の9日間にわたり開催されました。
全21件全て原案のとおり可決しました。
また、請願2件が審議され、1件が採択となり、関係省庁へ意見書を提出することになりました。

条例

会津坂下町税条例の改正

令和5年度の税制改正による地方税法等の改正に伴う改正。

その他

町道路線の認定 4路線を認定

- メガステージ会津坂下の開発に伴う道路2路線
- 旧中岩田団地用地の住宅造成工事に伴う1路線
- 坂下東第一地区土地区画整理地内の住宅造成工事に伴う1路線



人事

農業委員会委員 10名すべて同意

- 渡部 淳氏（古坂下）
- 渡部 敦氏（中村）
- 木村 行男氏（束原）
- 二瓶 義典氏（御池田）
- 五十嵐朱美氏（五香）
- 鈴木 清介氏（宇内）
- 鈴木 寿夫氏（船窪）
- 五十嵐智子氏（大沢）
- 渡辺 清栄氏（舟渡）
- 永山 廣隆氏（長井）

補正

一般会計補正額 3億9,752万3千円

- 一般会計の歳出の主なもの
- 会津坂下町生活支援事業
- ・住民税非課税世帯等臨時特別支援事業
- 該当1世帯 3万円
- ・ばんげ応援商品券配布事業 1人 5千円分
- ・社会生活支援事業等物価高騰対策事業
- 対象1事業所 10万円
- 各地区から要望のあった町道の整備
- 広瀬コミュニティセンター屋上防水改修工事
- 財政調整基金、福祉基金及び行政センター建設整備基金への積み立て

会 計		補 正 額	補正後の額	主な補正内容
一 般 会 計		3億9,752万3千円 ↑	80億9,666万4千円	
特 別 会 計	国民健康保険	319万9千円 ↓	18億2,419万円	保険料率の確定、人事異動に伴う人件費
	介護保険	494万6千円 ↓	23億5,350万3千円	人事異動に伴う人件費
	後期高齢者医療	445万8千円 ↓	2億 487万5千円	人事異動に伴う人件費
	下水道事業	107万3千円 ↓	6億3,772万7千円	人事異動に伴う人件費
	坂下東第一地区土地区画整理事業	2,401万1千円 ↓	2億 143万5千円	交付金の決定による補正人事異動に伴う人件費
	農業集落排水	1万1千円 ↓	6,688万9千円	人事異動に伴う人件費
水道事業会計（収益的支出）		239万円 ↓	4億5,977万8千円	人事異動に伴う人件費



「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める請願書

【提出者】 福島県教職員組合
中央執行委員長 瀬戸 禎子
福島県教職員組合両沼支部
支部長 星 和雄

【紹介議員】 横山 智代

【内容】 東日本大震災によって経済的に困窮している家庭の子どもたちの就学・修学を保障するため、令和6年度においても、「被災児童生徒就学支援等事業」の継続と、十分な予算確保を行うことを求めるもの。

本会議で採択され、意見書を送付しました。

福島県自治功労者表彰・優良議会表彰 受賞

6月5日、福島県町村議会議長会総会において、青木美貴子議員、山口享議員、佐藤宗太議員の3名が議会議員として長年の功績により、表彰されました。

第2回定例会の開会に先だち、議長から3名の議員へ表彰状が渡されました。

また、会津坂下町議会も優良議会として表彰されました。▶



佐藤宗太議員、青木美貴子議員、山口享議員

適格請求書等保存方式（インボイス制度）の延期・見直しを求める意見書

【内容】 多くの事業者は新型コロナ危機の下、事業継続に懸命に取り組んでおり、同制度への登録、経理変更準備に取りかけられる状況ではない。中小零細事業者の事業継続と再生、ひいては日本経済振興のために、インボイス制度導入の延期・見直しを求めるもの。

本会議で可決され、意見書を送付しました。

反対

インボイス制度導入の目的は、国家予算における消費税自体の増収であり、決して増税ではありません。消費税自体の増収を見込んでいるとすれば、それは地方消費税や地方交付税などの地方財政に対してプラスに働く側面も有しているため一概に反対するものではないため委員長報告に反対します。
(赤城 大地 議員)

賛成

この制度が始まれば、消費税を価格に転嫁できない事業者や農業者、個人事業主に大きな影響を及ぼすことは明らかだ。一方では2兆円もの消費税が企業に還付されており、イジメとしか言い様がない。よって、この請願は採択すべきです。
(小畑 博司 議員)

2, 4, 5-T系除草剤の早期撤去を求める意見書

【内容】 宇内地内と高寺地内の2箇所の国有林に昭和47年より埋設されている2, 4, 5-T系除草剤。町民の方々の安心・安全の確保や早期の不安解消のため、早期に撤去することを求めるもの。

本会議で可決され、意見書を送付しました。

役場新庁舎建設

新庁舎建設に係る令和5年のこれまでの経過をお知らせします。



町長の表明を受ける

新庁舎の建設場所については、令和5年2月に開催された議会全員協議会で建設予定地を「旧厚生病院跡地」にするとの表明を受けました。

新庁舎建設検討特別委員会で協議

議会でも新庁舎建設検討特別委員会を開催し、協議を重ねました。

令和4年12月議会以降の新庁舎建設検討特別委員会の経過

- 12月 「疑念の生じない建設を」との要請書を町長に提出。
- 2月 議員からの「旧厚生病院跡地を候補地とした議論を中止するよう町へ進言すべき」との提言について議論。賛成少数により申し入れは行わない事とした。
- 3月 厚生連などとの接触の経緯について町に説明を求める。
- 4月 改めて厚生病院跡地に選定した理由・経過について町長に説明を求める。
- 5月 議会として果たすべき役割について、議員間討議。議会として、町民の皆さんとの懇談会等を計画することを確認。

6月議会での提案を延期

当初、この6月議会に新庁舎建設場所の変更の議案が提出されることとなっていました。

しかし、町が各地区で開催した町民懇談会での皆さんから頂いた多数の意見を受けて、町民の皆さんが望む将来のまちの姿やそれに伴う行政機能などの議論が足りないとして、議案の提出は延期されました。

請願書が提出される

また、6月議会には、会津坂下町の街づくりを考える会より「新庁舎建設に関する請願」が出され、委員会に付託、審議され、不採択という結果となりました。

最終日の本会議でも様々な討論がされました。その後の採決で、請願の採択に賛成6名、反対7名で請願書は不採択となりました。

(詳しくは次ページ)

町の今後の動き

庁舎建設は施設を整備するだけでなく、防災拠点の確保、市街地の形成など、将来に大きな影響をもたらす重要な事業であります。

今後策定を始めるまちづくりの最上位計画、「第6次会津坂下町振興計画後期基本計画」を検討していく中で、まちづくり全体を考え、新庁舎のあるべき姿を町民の皆さんと一緒に検討していくことです。

議会としては

庁舎の位置は会津坂下町の将来を見据える大事な議論の一つです。

議会としても、町民の皆様の想いや声に耳を傾けてまいりたいと考えております。

懇談会等の開催時期や詳しい内容は決まり次第お知らせします。ぜひご意見をお聞かせください。

先日発表された町長方針はこれまでとは違い一方的なものでなく、議会や全町民の皆様とひとつひとつの議論を重ねながら決定していきたいというものでした。

したがって二元代表制のもと議会においても、それを補完する案または対案をもつべく、全町民の皆様のご意見を伺うよう同様の措置を講ずるべきと考えます。したがってこの請願は採択し時間をかけて議論されるべきものと考えます。
(赤城 大地 議員)

会津坂下町議会基本条例で議会は、協働を推進するため、町民と意見交換し町政全般に関する課題を的確に把握しなければならないとしています。

請願は庁舎建設地をめぐる議論を交わす上で参考になると考えられます。
(物江 政博 議員)

この請願は採択すべきと考えます。町長が厚生病院跡地を新庁舎として表明しましたが、議会としての議論がまとまっていない状態です。この請願書は参考資料として出された一部かと思えます。もっと議会として議論すべきだと思います。
(青木美貴子 議員)

新庁舎建設で住民の関心が最も高いのは立地であり、町を二分する話題となり、それぞれの立場ですべてが正論であることが問題を難しくしていると考えます。

請願書を熟慮し、現状のような事例が許されるなら議決の重み、行政執行の悪しき前例となります。推移を見守っていくことを認識すべきであろうと考え、請願書の採択に賛成いたします。
(酒井 育子 議員)

新庁舎建設に関する請願

【提出者】 会津坂下町の街づくりを考える会
代表 猪俣 恒雄

【紹介議員】 五十嵐 一夫

【内容】 会津地方の商業、流通の中心としての歴史があり、郡役所もあった現会津坂下町庁舎周辺用地を5年前の議決に基づき速やかに建設計画を実施する様町当局へ意見書を提出する事を請願するもの。

討 論



～新庁舎建設に関する請願について～

反 対

昨年の6月に「新庁舎建設場所について再度協議を求める請願」を議会は採択しました。それを受けて町は協議をしています。加えて中心市街地の活性化も含めたまちづくりも協議し、提案しようとしています。したがって、建設場所も含め、協議を踏まえた町の提案が出されるのを待っている今、建設場所を議決するような請願は採択すべきではありません。
(小畑 博司 議員)

庁舎建設地を指定した意見書の提出を求める本請願は、現庁舎周辺を含め再考すべしとして提出済の意見書にそぐわない。住民の声等を考慮しながら検討している現況の中、建設地を特定しての請願は不採択すべきである。
(渡部 正司 議員)

私はこちら判断！

賛否の分かれた議案

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	目黒 克博	蓮沼 文明	物江 政博	赤城 大地	横山 智代	渡部 正司	佐藤 宗太	山口 享	青木美貴子	渡部 順子	五十嵐 一夫	酒井 育子	小畑 博司	水野 孝一
請願第3号 新庁舎建設に関する請願	×	×	○	○	×	×	×	○	○	×	○	○	×	議長
発委第3号 適格請求書等保存方式（インボイス制度）の延期・見直しを求める意見書の提出について	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長

上記以外の議案は賛成全員で可決しました。 ○：賛成 ×：反対 議長は採決に加わりません

一般質問

町の考えを問う！



一般質問は、議員が町政全般について現状や方針を問うものです。

一人当たりの持ち時間は答弁を含めて 50 分です。

掲載している内容は、質問者自身が要約し、広報広聴特別委員会が校正したものです。

一般質問の映像を議会のホームページのほか、

YouTube でも画像を配信しております。

また、会議録もホームページでご覧いただけます。

画像配信は
こちらから



会議録は
こちらから



五十嵐一夫 議員

庁舎移転懇談会のあり方 周知不足との指摘を受けており ます

問

庁舎移転懇談会開催に先立ち、庁舎移転の議案提出を宣言していた。これでは懇談し意見を聞く場ではなく、説明会である。また、開催を知らない人が多い、周知不足でないか。

答

懇談会での町民の意見を聞き、提案時期は再考しました。また、周知が不足しているとの意見がありました。多くの町民に参加いただけるよう努めます。

問

配置計画等は、現庁舎周辺は劣位を強調、厚生病院跡地は優位性を強調、計画の比較が非公正・不公平であり、厚生病院跡地に誘導的でないか。

答

優位性や劣位性を強調する意見はなく、町民の方々の意見を聞き、比較・分析していきます。

問

厚生病院跡地に移転すると、固定資産税収入が失われる。庁舎が移転しないで企業・施設が誘致されれば、さらに固定資産税収入増が見込める。税額と見解を求める。

答

固定資産税収入は年約360万円くらいです。企業が誘致されれば税収入増は見込めます。まちづくりを考えていくうえで重要な土地であると認識しています。

只見線全線開通後の課題

自治体・商工団体等と連携が不可欠

問

町は只見線とどう向き合っていくのか、利用の増加を図り町活性に効果を高める取り組みは。

答

まちなかガイドと連携した「会津ばんげ町歩き」、JR東日本との共同企画「駅長オススメのちいさな旅」、来年の春日八郎生誕100周年記念事業など、銅像が建つ会津坂下駅をPRし知名度を高めていきます。利用促進・活性化につながる取り組みを進めていきます。



会津坂下駅を奥会津の玄関口にできないだろうか



横山 智代 議員

「家族農業」と「アグロエコロジ」の実践を
持続可能な農業確立のために、その有効性等を発信、推進して参ります

問 町の「家族農業」と「アグロエコロジ」の実践を広げて行くべきではないか。

答 国内の家族農業の割合は約96%であることから、その役割が重視されており、活性化を図るための様々な施策が展開されています。

町では家族農業を経営面積5ha未満の中小規模の農業経営と定義しています。家族農業は農業経営形態において約87%を占めており、町内の全農地面積の約45%を耕作しておりますが、家族農業に対する町の支援は十分とは言えません。今後、課題や要望等をお聞きし、国県の事業の活用、町独自の支援についても検討しながら家族農業を支えて参ります。

アグロエコロジは化学肥料や農薬に頼らず、生態系や農地が持つ本来の生物多様性を活用した農法で、化学肥料・農薬の使用を5割以上低減した環境保全型農業を町で2団体31名の農業者が取り組んでいます。町として、持続可能な農業確立のため

めに、その有効性等を発信、推進して参ります。

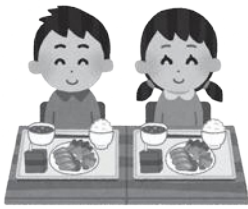
学校給食を無償化に
現時点で無償化又は一部補助を行う考えはありません

問 学校給食を無償化又は一部補助は行わないのか。

答 食糧材料費のみを食費としてご負担いただいております。光熱費等施設や設備の維持管理費、人件費等は町が負担しております。現時点で無償化又は一部補助を行う考えはありません。政府の「給食費の無償化」や「児童手当の拡充」などの動向も重視して参ります。

これも質問

関係5類移行後のコロナ対策について伺う



蓮沼 文明 議員

要配慮者用防災マップを早急に作成・配布すべきではないか
関係部署や要配慮者のご家族等と話し合い、早急に作成してまいります

問 本町の防災マップは、福祉避難所の健康管理センターをはじめとする障がい者等に向けての情報案内が欠落している。災害時での混乱を未然に防ぐため、障がい者等の要配慮者用防災マップを早急に作成し、配布すべきであると考えますが、町の見解を伺う。

答 現在本町の福祉避難所は、町健康管理センターをはじめとして、「介護老人保健施設なごみ・ケアプラザ坂下・シルクケア坂下・こばんげホーム・ケアホームつばみ・デイサービスなのき坂下」の7避難所があります。障がい者等の要配慮者用の防災マップは必要であると認識しておりますので、生活課の関係部署や要配慮者等のご家族等と話し合い、早急に作成してまいります。



健康管理センターに設置された看板

町民プールで障がい者の利用は
監護者同伴の条件付きで利用可能となっております

問 現在、インクルーシブ施設の観点において、障がい者の町民プール利用について伺う。

答 町民プール建設当時は、障がい者等の施設利用に配慮したインクルーシブ的な考えはございませんでしたが、時代の変化やニーズの多様性により、分け隔てなく誰もが利用できる施設でなければならなと考えております。

障がい者等の町民プール利用につきましては、監護者同伴の条件付きとはなりますが、ご利用可能となっております。

これも質問

関係町の観光案内板の内容見直し及び今後の修繕計画等を伺う。
関係空き家を有効利用し、障がい者等の「居場所づくり」への活用を。
関係ばんげがし公園「流れるプール」フロア面の修繕工事計画は。



目黒 克博 議員

街なか賑わい創出について 新たな発想で住民が求める様々な事業を検討します

問 賑わい創出のための空き店舗活用の具体的な取組みを伺う。

答 中心市街地に人を取り戻し賑わいを創出するには、空き家店舗の活用促進が課題であると認識しております。家賃補助の実施だけでなく、事業主が新規事業にチャレンジするための資金調達法に非常に有効な「クラウドファンディング」の制度の周知に努めます。熱意とアイデアをもった事業主を支援し、中心市街地の活性化に繋がってまいります。

問 企業誘致について、町の強みを活かしたアプローチをどう推進するか。

答 強みはアクセスの良さと考えております。業者の方々に遊休施設の状態、街並み等を実際にご覧いただく取組みを進めてまいります。また一方的な情報発信だけではなく、事業者が求める条件等をより多く聴取し、整備をすることが必要であると考えており、福島県等と連携を図り、個別に丁寧な対応をしてまいります。

高齢者雇用のサポートについて問う

シルバー人材センターの活用をサポートしています

問 高齢者の生き方を町がサポートすることの考えを問う。

答 高齢者の社会参加による介護予防や生きがいづくり、地域での見守りにより孤独化を防ぐ取組みを進めます。就労を希望される方の受け皿として、シルバー人材センターの活用があります。就労のみでなく、元気な方にはサロンやボランティアなどの地域の担い手として、やりがいや生きがいを持つことで健康維持に繋がります。介護サービスや医療受診が必要な方には、サロンへの参加による介護予防、地域包括ケアシステムによる適切なサービスの提供に取り組んでいます。

高齢者が住み慣れた地域で生活が続けられるようサポートをしてまいります。



小畑 博司 議員

あらゆる「ごみ」を資源にしよう 調査・研究を継続していきます

問 会津西部の中核都市として、近隣町村と連携し、生ごみやし尿、下水道の汚泥、合併浄化槽の汚泥などを活用してバイオマス発電事業や、自前の肥料を生み出す事業の展開を実現できないか。

答 また、ある国内企業は、廃タイヤやリチウム電池、廃ビニール、梅のたね、生ゴミなどを超高温で分解して高機能炭を創りだす装置を開発し、実用化している。是非ともわが町でも活用できないか。

問 バイオマス発電事業につきましては、地域の特性や規模により様々な課題があり、且つ採算性



の確保なども重要なので、調査・研究を継続していきます。

ICT教育のデメリットは何か

健康面への影響について留意する必要があります

問 小中学生の全員にタブレットが配備されるなど、ICTが教育に活用されていますが、利便性とともに弊害も懸念されている。健康面も含めた懸念とは何か。その対策はどのように取られているのか。

答 デモリットの懸念材料として、タブレットだけではなく、IT機器の長時間の使用によるドライアイや視力の低下、睡眠の質の低下、記憶力や意欲の低下など健康面への影響があり、留意する必要があります。

これも質問

心安心・安全な食糧生産を町民の力で継続・発展させよう。



将来のまちづくりを
どう描く？
「ばんげキャンパス」
(7地区)



渡部 正司 議員

「あたらしいまちづくり」とは
変える勇気をもってすすめるこ
とです

問

新庁舎建設地検討の中で、「あ
たらしいまちづくり元年」を
示したが、具体的にはどのようなこ
とか。そのビジョンは、住民に何を
もたらすか。

答

現状を分析し、20年後、30年
後も将来にわたり住み続けた
いと思えるまちにするため、変える
勇気をもってまちづくりをすすめる
ことです。

具体的には、町が持続的に発展し
ていくための新たな視点でのまちづ
くりのビジョンを描く、転換期の年
であるという思いの言葉です。計画
の策定には多くのの方の考えを反映さ
せ、将来に渡って発展し、住民が夢
と希望がもてるものにしてまいりま
す。

障がい者の投票支援は

安心して投票できる環境を整
備します

問

障がいがあるからといって投
票を諦めたり、投票ができに
くいことはあつてはならない。投票
弱者への選挙支援の課題と対策はど
うか。

答

障がいや高齢のために投票す
ることが難しい方々への支援
は、十分ではないと認識しています。
選挙広報の点字版、防災無線を活
用した音声案内について検討します。
投票所へのスロープや手すり、車い
す等が必要と考えています。

郵便投票や代理投票の制度の周知
方法を再考し、選挙時だけでなく常
時より広報紙への特集記事、SNS
発信等、制度を理解いただける工夫
を行ってまいります。



佐藤 宗太 議員

外郭団体の考え方は
住民ニーズの多様化に対応する
ため重要なパートナーです

問

外郭団体の課題は

答

外郭団体においても少子高齢
化や過疎に伴う担い手不足
や、人口減少による活動量の減少に
より、今後は外郭団体が単体で存続
していくことが困難になることも予
想されます。

町では、各団体が統合することも
選択肢の一つであると考えておりま
す。統合することで、給料や雇用条
件が標準化し人材不足の解消につな
がるだけでなく、多様化する住民
ニーズにも対応できる等、より効果
的なサービスを提供するためのパー
トナーとして、その活動を継続でき
ると考えております。



障がい者支援について

地域全体で支え合う仕組みづ
くりを実施してまいります

問

障がい者支援の現状は

答

障がい者手帳の交付状況は、
身体障がい者手帳が713
人、療育手帳が124人、精神障が
い者保健福祉手帳が137人となっ
ております。

問

障がい者支援の考え方は

答

当事者や家族の参画による意
見交換の場や、福祉の取り組
みなどの情報発信を推進し、地域全
体で支え合う仕組みづくりを実施し
てまいります。

これも質問

問今後のごみ処理の考え方は
岡広域ごみ処理施設の当町の負担金
と歳出計画は



酒井 育子 議員

町長の政治姿勢について問う

中心市街地活性化、グランドデザイン等を総合して進めます

問 新庁舎建設場所を旧厚生病院跡地を強力に進める根拠とは。財政に一筋の明かりが見えてきたとはいえ、町民の声の大きさに対し、議長時代を振り返り、評価と意見を問う。

答 新庁舎の場所のみが先行し、町が二分しているこのままの状態を進めては「新しいまちづくり」を実現できないと考えました。今後は中心市街地活性化や全体的なまちづくりのグランドデザインを総合して進め、「新しいまちづくり」のビジョンを示していく中で、適切な位置というものが自ずと見えてくると考えます。

町民の皆様には、多くの混乱を招いてしまったことをお詫びし、皆様と「新しいまちづくり」を描いて行きたいと考えております。

問 7割を依存財源に頼らざるを得ない当町の財政シミュレーションと健全化財政へ向けて基金の固定化を図るべきと考えるが。

答 10年間を目安としたシミュレーションを作成しております。庁舎に係る建設費として25億円を見込んでおりますが、コストの縮減に努めます。

令和6年度までを「財政健全化重点期間」と定め、物価高や予期しない事態に備え財政の健全化を図って参ります。

福祉の町、あたたかいまちづくりを
土地利用とあわせ、様々な手法を検討して参ります

問 令和6年度に購入予定である南幹線県有地に、障がい者、福祉施設の設定場所として誘致をしてはどうか。

答 県有地等の効果的な利活用を検討し、町単独では困難な施設整備については、県営や近隣町村と広域的に取り組むなど、有効な手段と手法を検討して参ります。



学ぶ より良い広報紙づくりのために

県町村議会議長会 広報研修会



6月27日、福島市のとうほう・みんなの文化センターで開催された福島県町村議会議長会広報研修会に参加しました。

一般財団法人自治体広報広聴研究所代表理事で広報アドバイザーの金井茂樹氏を講師に、伝わる議会報の企画と編集についてお聞きし、読者を意識した紙面の作り方や、企画の作り方など、改めて学ぶことが出来ました。

より伝わる広報紙づくりに役立てて参ります。



議会を傍聴してみませんか？

手続きは簡単！議場前にある受付簿に名前を書くだけです。

ぜひ傍聴にお越しください。

※傍聴の際はマスクの着用をお願いすることがあります。



【令和5年第3回定例会日程（予定）】

8月	31日(木)	招 集 日
	4日(月)・5日(火)	一 般 質 問
9月	8日(金)・11日(月)	決算特別委員会
	13日(水)	最 終 日

※日程は変更になる場合があります。



霜被害・ドローン^{ちよくは}直播の現状を視察

視る



総務産業建設常任委員会

5月12日、総務産業建設常任委員会で農業の現場2ヶ所を視察しました。

4月の霜により、甚大な被害を受けた若宮地区の果樹を視察しました。

当町では、会津身知らず柿とリンゴの被害が確認されております。

支援の在り方について、引き続き協議して参ります。



金上地区でドローン直播を視察しました。

直播とは、地面に直接種をまいて育てる栽培方法で、苗を育てる作業の省力化や、作業時間の短縮などの効果があります。

また、機械の運搬も簡単で、ドローンは肥料散布・防除作業などにも使用できるため、汎用性は高いと近年注目されています。



聴く

未来トーク開催

文教厚生常任委員会

4月27日、障がいを持つ子の保護者の方に、お話を伺いました。

現状として、次の項目が挙げられました。

- ・グループホーム等施設が不足していて将来が不安。
- ・就労の場所、生活介護施設等が不足している。
- ・地域と関わる場所や機会が乏しく、休日は家以外に「居場所」がない。
- ・当事者や支援者の「生の声」が、町の障がい者計画に反映されていない。

地域の理解の重要性和各施設など「居場所」づくりが必要とされていることが分かりました。

町の障がい者等計画策定に向け、不足点や更に強化すべき点を、今後も調査研究して参ります。



今後必要な支援等【要望】

- 発達外来の医療機関の窓口が欲しい。
- 発達障がいについて、親や祖父母を対象に勉強会を開いては。
- 障がいを持つ子を理解し、対応してくれる医療機関、施設であることをシール等で明確に示してほしい。
- 喜びや満足感を得て働ける場所、生活の場所等の「居場所」づくりが必要。
- 学童期から障がい者を含むマイノリティについて、教育の中に組み入れ、障がい者等の理解を促して欲しい。



導入に向け検討が進んでいる中学校の部活動地域移行。変わりつつある中学校の部活動について紹介しています。

今回は坂下中学校剣道部顧問の鈴木先生にお話を伺いました。



「千鍛万錬」

坂下中学校剣道部の部員数は、令和2年度9名、令和3年度11名、令和4年度8名でしたが、令和5年度は15名と増加傾向にあります。現在の剣道部は、中学校から剣道を志した部員が大半です。

部員には、歴史的に名高い会津という地で剣道に取り組んでいる事を、誇りに感じながら、千鍛万錬^{せんたんばんれん}、日々の稽古に精進してほしいです。

会津坂下町には、伝統と実績を兼ね備えた律心館道場があります。道場で指導されている和田至法先生^{よしのり}には、お時間の都合がつく平日の放課後、部員に稽古をつけて頂いています。

地域の方々のご支援は非常に有り難く、多くの方々に坂下中学校の剣道場に足を運んで頂きたいと考えています。



坂下中学校 剣道部顧問
すずき けいいち
鈴木 恵一 先生

6月の中体連大会前、剣道部で諏訪神社に必勝祈願をしてきました。生徒は、町内を剣道着姿で歩くのが少し恥ずかしかったのかもしれませんが、私はそれが皆の1番輝いている姿だと思っています。

編集後記

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、停滞が続いていた人々の流れも徐々に回復傾向にあると感じています。その裏側では戦争などによる物価高騰で、様々な経済的影響が私たちの負担になっており、早々の回復を心から願っています。

当町は令和5年度を「あたらしいまちづくり元年」と位置付けました。議会としても人口減少対策等に取り組み、将来にわたり住み続けたいと感じられるまちづくりを実現するため、町民の皆様から多くのご意見をいただき、皆さんと一緒に造り上げたいと思います。
(目黒 克博)

広報広聴特別委員会

委員長	小畑 博司
副委員長	横山 智代
委員	目黒 克博
委員	蓮沼 文明
委員	物江 政博